

Javaフレームワークの採用で 高品位Webアプリケーションを 短期間で開発することに成功



日本ヒューレット・パッカード株式会社は、Javaを使った総務省の電子入札・開札システムの開発にあたり、テンアート二のWebアプリケーション構築フレームワーク『WebWorkBench DeveloperCafe』(以下:WDC)と、PDF帳票出力フレームワーク『WebWorkBench ReportCafe』を採用している。フレームワークの有効活用で業務ロジックの開発に専念でき、使い勝手の良さと的確なサポートで、Java初心者でも高品位のシステム開発が行えるようになり、わずか4ヶ月という短期開発を実現した。

●システム名称:総務省・電子入札・開札システム

●Framework

WebWorkBench DeveloperCafe
WebWorkBench ReportCafe

●導入効果

- ・WDCの活用で業務ロジックの開発に専念
- ・Java初心者でも高品位のシステム開発を実現
- ・最大時80人/月で4ヶ月の短期開発を実現
- ・1億5,000万円~2億円のコスト削減効果

パートナー選びの決め手は 同じ“志”で協力できること

日本ヒューレット・パッカード株式会社は、昨年11月のコンパクトコンピュータとの合併により、携帯情報端末からPC、ならびにIA、UNIX、NonStopなど各種サーバ製品、ストレージ、プリンタ、そしてサポート&サービスまで豊富なビジネス・ポートフォリオを揃え、世界をリードする体制を整えている。

その中で、ソフトウェア開発を中心にシステムの提案や構築などを行っているシステム統括本部では、Javaを使った総務省の電子入札・開札システムの開発にあたり、テンアート二のWebアプリケーション構築フレームワーク『WebWorkBench

DeveloperCafe』と、PDF帳票出力フレームワーク『WebWorkBench ReportCafe』を採用し、高品質のWebアプリケーションを短期間で開発することに成功している。

今回、テンアート二のフレームワークを採用した経緯について、システム統括本部第二システム本部 システム第六部 部長の長橋 一夫氏は、「2002年5月に総務省の電子入札・開札システムのプロジェクトがスタートし、Javaを使って開発することになりました。ところが、プロジェクトメンバーの大半がJava開発の経験が皆無に等しかったので、どういう開発ツールでどのように作っていくかと一から考えた結果、フレームワークがどうしても必要だという結論に達したのです。いくつか市販のフレームワークを検討しているときに、ちょう

ど別の部門で弊社のフレームワークの標準製品を選定している作業を進めており、その中にテンアート二の製品がリストアップされていました。その時点ではまだいくつか選択肢がありましたが、最終的にテンアート二の製品を選定した一番のポイントは、テンアート二の担当者の方が、我々が今回のプロジェクトで目指していた“志”に即座に賛同してくれて、ぜひ協力したいと言ってくださったことです。というのも、今回のプロジェクトは、電子政府を目指す『e-Japan構想』の大きな柱のひとつにあたるもので、中央省庁や地方自治体へ水平

展開していく上で重要な試金石となるものだったからです。特に官公庁のプロジェクトは息が長いものですから、製品を購入してサポート契約しておしまいで困りますからね。我々の志を理解していただき、パートナーとして未永くお付き合いしていただけたところでなくてはなりません。結果的にテンアート二さんをパートナーに選定して正しかったと思います」と語る。

迅速で的確なサポートで
順調に進むプロジェクト

実際にテンアート二のフレームワークを使ってJavaのシステムを構築するにあたっては、導入研修を2日間に渡って行い、2002年6月からプロジェクトが実質的にスタートした。

「リーダークラスのプロジェクトメンバー15名を対象に、テンアート二さんにWDCの導入研修をしていただきました。最終的



システム統括本部 第二システム本部
システム第六部
部長 PMP
長橋 一夫氏

「今回、テンアート二さんにご協力いただき、高品質のWebアプリケーションを短期間で開発することができました。サポートは完璧だといっても過言ではないです。少なくともプロジェクトを立ち上げていく上でなら問題はありませんでしたし、非常に助かりました」

にプロジェクトメンバーは80名くらいまで増えたのですが、立ち上がりは非常に早かったですね。特に研修後のサポートが非常に良かったと思います。開発現場と一緒に入ってくれて、何もわからないメンバーに対してフレームワークを使ったプログラミングの基本部分をきちんと指導していただきました。製品自体が使いやすいことも理由のひとつですが、あまりにも立ち上がり早かったのでちょっと驚かされましたね」と長橋氏。

また、導入当初は若干トラブルも生じたが、テンアート二の迅速なサポートによって問題をすぐに解決できたという。「今回のシステムは、WebアプリケーションサーバのWebLogic上で動いておりまして、当初、WDCがWebLogicの環境に一部対応していない部分があったのですが、テンアート二の方にすばやく修正していただき、問題なく開発できるようになりました。エンジニアの質問にもその都度、迅速で的確な回答をしていただき、ありがたかったです。たとえサポート契約をしていても、回答を3、4日待たされるところはざらにありますからね。特にメンバーの多くはJavaの開発が初めてだったので、質問も多かったと思いますが、親切にいろいろ教えていただいて非常に助かりました」とテンアート二のサポート力を高く評価する。

開発工程においては、Webシステム開発で必須となるデータベース・アクセス、セッション管理などの機能を高水準のAPIとして提供しているWDCの能力をフルに活用し、業務ロジックの開発に専念できたおかげで、完成したシステムはクライアントから非常に好評です」と長橋氏はWDCの導入効果を実感する。

今回、同時に採用したPDF帳票出力フレームワーク『WebWorkBench ReportCafe』についても、「実は、新人のエンジニアに使わせたのですが、すぐに簡単に使いこなしていたので、使い勝手が非常に良い製品であることが実証された

と思いますね」と評価している。

4ヶ月という短い開発期間で
高品位のWebシステムを開発

テンアート二のフレームワークを使って開発された総務省の電子入札・開札システムは、ビッグプロジェクトにもかかわらず、最大時80人/月、わずか4ヶ月という短い開発期間で2002年10月に本稼働の運びとなった。

「Javaで開発を行って、しかも分散処理でデータベースがあって、最新の認証技術を使ったセキュリティ機能があって、わずか4ヶ月で開発できたのですから驚きです。その一番の理由は、テンアート二さんのフレームワークが使いやすいことですね。そして二番目は弊社の技術力層の厚さだと自負しています。その中には、パートナーであるテンアート二さんのサポートも含まれています。単に開発工程が短くなっただけではなく、非常に高品位で本稼働を迎えることができました。本稼働した時点でバグが1、2カ所しかなかったのです。ほかのベンダーの本稼働時のバグ件数に比べれば格段に少ないと思います。また、仮にフレームワークを使わないで開発したときの見積りを試算したのですが、すべて一から開発していたら1億5,000万から2億円くらい余分にかかっていたと思います。実際、それほどの予算はありませんから、フレームワークなしでは今回のシステムは構築できなかったといっても過言ではないですね」と長橋氏は強調する。

今回、完成した総務省の電子入札・開札システムのアプリケーションは、総務省からほかの中央官庁へ無償配布される構想があり、ほかの中央省庁や地方自治体への水平展開が期待されている。

「総務省のアプリケーションは各省庁に無償配布されることとなりますが、当然、テンアート二さんのフレームワークをベースにカスタマイズの開発作業が発生します。今回のシステムは非常に評判が良く

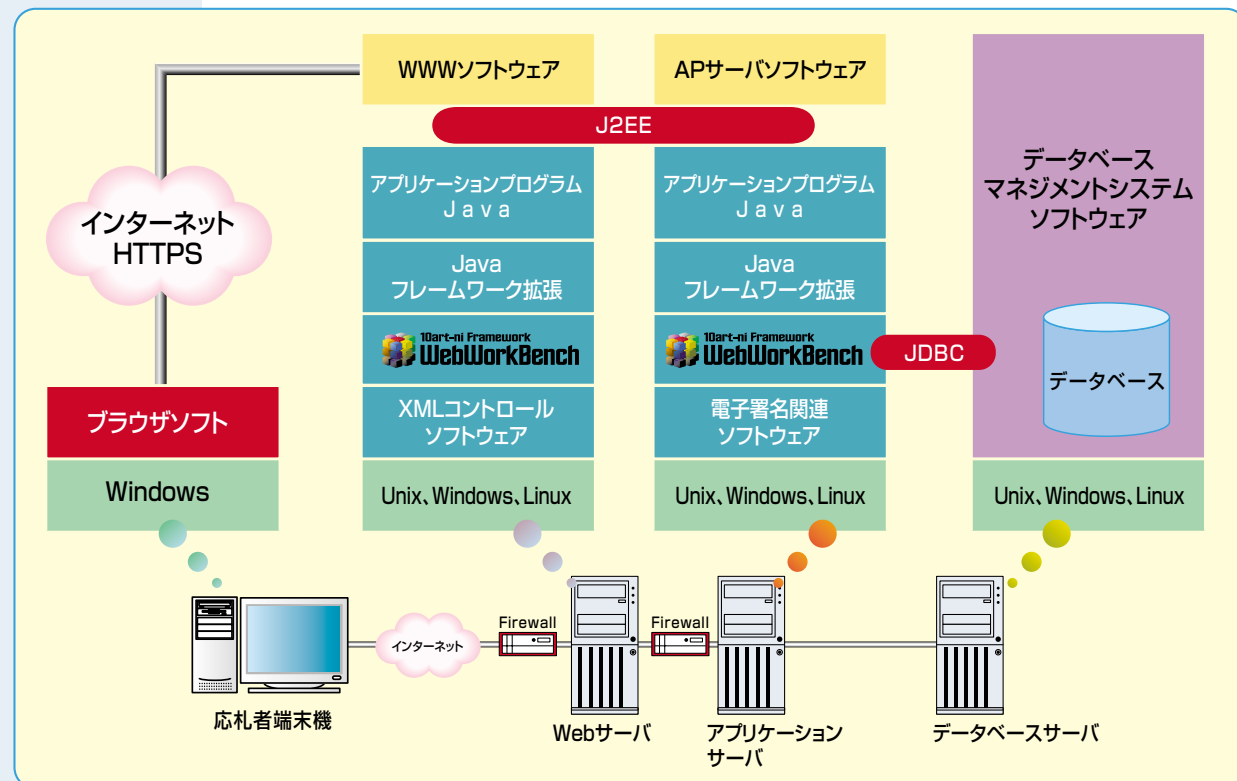
て、中央省庁はもちろんですが、地方自治体からも問い合わせを多数いただいております。現在、それに対応している状況です。また、電子入札・開札を中核として調達管理や物品管理など調達事務に特化した形で範囲を広げた展開も考えています」と長橋氏は今回開発したWebアプリケーションをもとにした壮大な構想を抱いている。

最後にパートナーであるテンアート二に対しては、「官公庁のシステムでは、オープンソース化、オープンプラットフォーム化の流れがありますので、JavaやLinuxに特化した、優れたノウハウをお持ちのテンアート二さんには、今後もよきパートナーとして一緒に協力していただきたいですね」と期待を寄せた。

『e-Japan構想』の波に乗り、同社のビジネスは更なる飛躍を遂げようとしている。



総務省 電子入札・開札システム
http://www.e-procurement.soumu.go.jp/SmoServletMain



● 日本ヒューレット・パッカード株式会社 ●

設立 1999年7月
本社所在地 東京都品川区東品川12-2-24
資本金 100億円
従業員数 約6,000名
事業内容 コンピュータ、コンピュータシステム、コンピュータ周辺機器、ソフトウェア製品の開発・製造・輸入・販売・リース・レンタルおよびサポート

U R L http://www.hp.com/jp/

